



# 海の向こうから

みなさんいかがお過ごしですか? 編集長のキムテツです。今年の夏は暑かったなあと思っていると既に冬。そしてかなりの冷え込みを記録している広島街ですが世界各地で広島県出身の青年海外協力隊員が汗を流しながら活動に明け暮れていることでしょうね。2011年に起こった東日本大震災は、復興が進んでいますがまだまだ大きな爪痕を残しています。全国民が「今自分に出来る事を」を肝に銘じて早期復興を目指しています。派遣国でも話題に度々あがることでしょう。東北の復興活動と同じく派遣国での活動も出来ることを少しずつ継続していただきたいと思います。そして地域に根ざし住民に愛される隊員活動を期待しています。思い出に残る2年間にしてくださいね。

さてさて、2012年度は、広島県OB会長が交代。前任とはまた違ったカラーの持ち主で新しい旋風を巻き起こしている皿海さんにお話を聞きました。

## 新会長就任

会長 皿海博信さん  
H15年度2次隊  
自動車板金  
タンザニア



青年海外協力隊広島県OB会の皆様

皆様 こんにちは。

本年度より会長をさせて頂いております、皿海博信(さらがいひろのぶ)と申します。早いもので、私が会長をさせて頂くようになって、もうすぐ一年になろうとしています。この間、皆様のご理解とご協力、ご指導を頂き、何とか会の運営をやって来れました。ありがとうございました。

広島県OB会には沢山の個性豊かな方々がいらっしゃいます。その中で、自分のカラーを出して行こうと奮闘してまいりました。その一環として、屋台大好きクラブを立ち上げ、皆さんに積極的な参加を呼びかけ、5月、11月のイベントにも参加しました。

これらのイベントには本当に沢山の会員の方に参加して頂きました。ありがとうございました。私が目指す活動方針は、ズバリ! 「楽しいこと」です。初めて参加する方、いつも参加する常連さん、久しぶりに参加する方、どなたが参加しても、楽しくなかったら次に参加しようと思わないですよ。だから、本番当日は勿論、準備段階から多くの方に関わって頂き、OB会全体で盛り上げて行こうと思っています。更に25年度は、前年の反省を踏まえ、より楽しく、より参加した

いと思って頂けるような活動を行っていきたいと考えています。

皆様、ぜひ積極的に CB会活動に参加してみてください。よろしくお祈りします。

最後になりましたが、現在途上国で活躍されている、広島隊員の皆様お元気ですか？

健康には十分気をつけて、とにかく元気で活躍ください。海の向こうから応援しています。

皆様 今年も健康で元気にがんばりましょう！

血海会長の積極的な活動呼びかけにより多くの新しいOB会員が活動に参加されています。これからますます楽しみです。

ご紹介が遅くなりましたが、派遣中の隊員の皆様が一番お世話になっているだろうと思われる方をご紹介します。着任から 9 ヶ月が経ちましたが、濱長さんから送り出された広島市出身の隊員の方も多くいらっしゃるでしょう。地元広島に戻って来て活躍中の濱長さんに聞いてみました。

## ニューフェイス

濱長 真紀さん

H19年度3次隊

体育

ベリーズ



みなさんこんにちは！もう既にご存じの方も多いかと思いますが、3月から JICA 国際協力推進員として着任いたしました、濱長 真紀（はまなが まき）と申します。

2012年3月まで、毎日ジャージで中学生に体育を教えていたため、推進員になりパソコンに向かう日々。走りまわっていた毎日から生活が一転し、一気に目が悪くなってしまいました（笑）

けれど広島市の国際協力推進員になり、本当に毎日が楽しく、学ぶことばかりです。何よりもたくさんの人に出会い、そしてそこからたくさんの人に繋がり、多くの出会いがあること。そして、少しだけ誰かの

の人生のターニングポイントに関われること。本当に毎日幸せを感じています。

●私のモットー「悩んだ時は、自分がどきどきワクワクする道を選ぶ。」

そんな感じでこれからも広島県青年海外協力隊 CB会のみなさまと一緒に、どきどきワクワクすることを探していきたいと思っています。

平和記念公園にいらっしゃった際は、ぜひ濱長に会いに来て下さい。全力で歓迎致します！

もう冬ですね。みなさま、風邪などひかれないうご自愛下さいませ。

モットーがいいですね！皆さんも活動や現地での生活に迷いが生じたときは、このモットーを実践してみてもいいかが？

## 壮行会

広島県 CB会では、新ボランティアの出発時期に合わせて年4回6月、9月、12月、3月に「壮行会」を開催しています！出発前のボランティアや CB/OGや JICAの方など様々な人が集い、毎回食べながら、飲みながら、楽しく交流を深めています。この3月にも開催予定ですので、まだ参加したことのない方もぜひぜひ気軽にご参加ください☆

次回の開催予定日：12月17日

毎回、開催日時が決まったら CB会メーリングリストでご案内しています。こちらもチェックしてみてくださいね！！

これまでに何百人もの広島県出身OBを見送りして来たイベントです。是非多くの人で祝おうではありませんか。多数のご参加お待ちしております。

最近帰国されて、広島で活動を開始されたOB・OGを紹介するコーナーです。

今回は帰国されて東広島にあるJICA中国で活躍中の森北さんと広島市役所で活躍中の井さんの登場です～

# OB紹介

森北裕美さん

H21年度2次隊

体育

ザンビア



1. お名前は？ : 森北裕美（モリキタ・ヒロミ）です。
2. どちらに派遣されたのですか？ : 南部アフリカのザンビアです。
3. 隊次は？ : 21年度2次隊です。
4. 職種は？ : 体育です。
5. 派遣中はどのような仕事を？ : ザンビアの体育教育の普及赴任先の授業・マネジメント、スポーツ大会の実施、体育教員の育成など。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴を : 高等学校保健体育教員
7. なぜ行こうと思いましたか？ : 好奇心…海外で生活したい、価値観を広げたい、新しいチャレンジがしたい！などなど。安心…JICAに参加するということは、様々な面で安心でした。 自尊心…今までやってきたことを生かしたいと思いました。とすべて自分のことでしたね。
8. 行ってみての感想 : 一言で言うと、得難い経験をさせてもらったと思います。 一番良かったことは、結局友達が増えたことかな？
9. 帰国後の職業(現在) : JICA中国市民参加協力課国内協力員
10. お仕事にボランティアの経験が生かされましたか？ : はい。経験は積み重ねられますから、どんな仕事をして生かされると思ってます。
11. 派遣中の隊員にアドバイスを : とまかく2年間、「そこにいた」ということに意味があるような気がします。あとは無事に帰ってきてください。この素晴らしい国、日本で待ってます。
12. 帰国後、任国へ遊びに行かれましたか？ : はい。数か月の間にデベロップメントしていて驚きました（笑）また自分の英語能力が衰えていることも実感しました。派遣中、ザンビアはあまり好きではなかったけど、やはり私にとって第2の故郷です。ナトテラ！（ありがとう！）



現在、森北さんは募集説明会などでも司会を務められ新しい協力隊員の誕生の一翼も担われています。

# OB紹介



井 尚子 さん

H16年度2次隊

観光業

コスタリカ



1. お名前は？ : 井 尚子です。
2. どちらに派遣されたのですか？ : 中米のコスタリカです。
3. 隊次は？ : 16-2です。気づけば、帰国して6年も。
4. 職種は？ : 観光業です。(任国で、何の職種で来たのかと訪ねられ、「観光です。」と答えると、「君はボランティアでなく、観光しに来たんだねえ。」という間違った会話のやり取りも、時々ありました・笑)
5. 派遣中はどのような仕事を？ : コーヒー産地の小さな村で、観光分野で村おこしをするような活動をしていました。 具体的には・・・
  - エココーヒーツアーの立ち上げ・運営 (コスタリカは、エコツアー発祥の地とも言われています☆)
  - 村の女性やおじいちゃんたちが作ったモノを売って、収入を得ることができるようなお土産屋さんの立ち上げ・運営といった事業のお手伝いなどをしていました。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴を : 大学：国際関係 (開発やNGO) の分野を専攻  
大学卒業後：旅行会社でセールス&添乗などの仕事に従事  
という感じです。
7. なぜ行こうと思いましたか？ : 中学生のころから、行きたいなあと思っていました。あと、大学時代の親友が先に協力隊に行って、私も続かなきゃ！と思って。
8. 行ってみての感想 : 現地の人と一緒に暮らして、同じ目線で活動する。←協力隊のコンセプトでもありますが、そういう活動だったからこそ、沢山のことを学ばせてもらえましたし、行ってよかったなあ。また、日本を外から見つめ直すいい機会にもなったなあと思います。
9. 帰国後の職業(現在) : 帰国後は、「JICA国際協力推進員」という、派遣前&派遣中の隊員さんのサポートや、国内で国際理解教育の啓発などをする仕事をしていました。大好きな仕事だったのですが、3年間という期限付きのお仕事で、やむを得ず終了。その後は、広島市の職員として働いています。(←広島市には、「協力隊」の経験も考慮される「民間採用枠」という制度があるのです。)
10. お仕事にボランティアの経験が活かされましたか？ : 現在、「地域起こし推進課」という課で、地域の課題やニーズを掘り起こして、地域活性化のための事業を推進していく仕事に従事しています。地域の色々な人の意見を聞いて、あらゆる価値観に触れながら、最善の解決法を、地域の人と一緒に見つけていく。国が違っても、違わなくても、何らかの問題を解決していく上で必要なものって案外同じで、国内版の協力隊みたいだなあと感じるのがしばしばです。隊員時代の経験も少しは活かされているのでしょうか・・・!? 活かされているといいなあ。
11. 派遣中の隊員にアドバイスを : 協力隊の派遣期間は、人生80年とすると、その中のたったの2年間。けれども、自分の人生や価値観、生き方などを大きく左右する、貴重な2年間だったなあと思います。きっと、多くの帰国隊員さんが

そんな風を感じているのではないかなと。楽しいことばかりではなく、時に涙し、自分の無力さなどを感じる日々もあるかと思えます。でも振り返ってみると、そんな毎日の積み重ねが、かけがえのない人生経験となっています。あっという間に過ぎていく任国での日々を、自分らしく大切に・楽しく過ごしてください！

応援しています☆

1 2. 帰国後、任国へ遊びに行かれましたか？： まだ行っていませんが、体力のあるうちに（いつかおばあちゃんになるまでには）、行きたいなあと考えてます！

井さんは、現在日本版協力隊として地域のニーズを引き出し地域の活性化に尽力されてます。協力隊の経験が生きてることでしょう。

## 国際協力の日(バザー)

粉川 綾佳さん  
H22年度1次隊  
小学校教諭  
バングラデシュ



私は隊員時代、最高の癒しが買い物でした！バングラデシュに雑貨のイメージなんてありませんよね？

友達へのお土産を考えているうちにある想いが芽生えてきました。「雑貨を通して世界を見てもらいたい」途上国は「かわいそうな国」と思われがちですが、決してそうではないですよ。たくさんの方が持つバングラデシュのイメージを良くしたいと考え、かわいい雑貨を見つけては大量に購入し帰国しました。

日本に帰ってからフリマに出してみました。現実はその甘くなく…年齢層の高い客層だとぜんぜん売上が上がりず、かなりへこみました。しかし、先日行われた「国際交流・協力の日」では、他の隊員とコラボしてバザーを出店しました。外国に興味のある方が多く、自然と話が盛り上がり、驚く程の売れ行き！お客さんに「かわいい」と選んで購入して頂ける瞬間は本当に嬉しかったです。今後もこのような活動を続けていきたいです。



バザー参加お疲れ様でした。これからもイベントを通してバングラデシュの魅力を発信し続けて下さいね。

## 国際協力の日(屋台)

橋田 亮平さん  
H21年度2次隊  
村落  
セネガル



「国際交流・協力の日」参加

1 1月18日(日) 広島国際会議場にて実施された国際交流・協力の日「ひろしま国際村～世界の屋台」に参加しました。

今回の我々の屋台のテーマは、ずばり ☆★☆アフリカ☆★☆

アフリカをイメージした飾り付けに加え、メインとなる料理もちろんアフリカ料理。セネガルの代表食である「マッフ

エ」(ピーナッツ風味のカレーライス)と「ハイビスカスティー」を提供しました。アジア系がほとんどの屋台村でアフリカ屋台は我々だけということもあり、来場された多くの方に興味を持ってもらう事ができました。

しかし、何と言ってもやっぱりOB会の強みは「人の力」です。当日手伝って下さった多数のCVが朝から夕方まで声を張り上げて笑顔で販売してくれたおかげで目標もほぼクリアでき楽しく有意義な一日となりました。

協力して下さった方、本当にありがとうございました！

今回、屋台を通じてOB会内での交流も深められました。こうした「いい雰囲気」で一般の方と接点を持つ事が協力隊のプラスイメージのPRに繋がると感じました。

橋田さん調理に販売からお疲れ様でした。地域の方々との交流を通してOB会の結束も一段と深まったことでしょう。



## HOCAほかプロジェクト報告

河村実幸さん  
H22年度3次隊  
エイズ対策  
マラウイ



先日の支援金を頂き、その支援金を元に ART PARIY への出展の準備を進めてきました。今回は、その中間報告をさせて頂きたいと思います。

ART PARIYとは、広島市内の団体が中心となって実行委員会をつくり、毎年12月に行う美術展です。児童養護施設やシェルターなどに暮らす、支援を必要としている世界の子ども達が日常風景や文化・風習を描いた作品は1枚1000円以上で販売され、その収益金は全額、子ども達の自立と夢の実現のため、各施設に寄付されます。

この度、HOCAほかプロジェクト、育てる会から支援を受けまして、マラウイのムズズ市に住む30人以上の孤児に、クレーパス、スケッチブック、鉛筆、消しゴムを提供し、子どもたちがそれぞれ絵を描きあげました。その作品は、9月末にART PARIY主催者へ発送を完了しております。絵を発送した際、絵を描いたこどもの顔と、その子が描いた絵と一緒に写真を撮って同封したもののうち、2点程、ART PARIYのポスターとポストカードにその写真を使用して頂きました。(ポスターの一番下の中央の写真とポストカードの右上の写真。共に背景はレンガ) イベント告知のポスターをご覧ください

マラウイでは、学校のカリキュラムの中に EXPRESS ARIS という授業が設けられてはいるものの、物品を揃えることが難しく、実際、学校教育の中で絵を描くことは皆無に等しい状態です。絵の描き方というのを具体的に習ってないことも影響しているのか、技術の差に大きな開きがあり、何もアドバイスなくとも、どんどん書きあげていく子とそうでない子との差が目につきました。このお絵かきを実施する際に、多くの住民や、同僚、同任地の協力隊員に協力を得られたため、大きな苦勞することなく、このプロジェクトを終えることができました。

最終的に、この絵は、ART PARTYにて一枚 1000 円以上で売られ、その収益は絵を送った団体の収益となることとなっています。マラウイではプライマリースクール（日本でいう小学校）でも、毎学期 MK3000 を徴収しており、支払えない家族が多く存在しています。私たちの考えとしましては、その売り上げを、学費が払えない子どもたちの学費に充てる考えています。

最後になりましたが、絵を描き終えた後、絵を描く際に使用した道具一式を参加賞として渡したのですが、みんなとても大喜びで、大事そうに抱えて帰っていく姿がとても印象的でした。誰一人として、お絵かきするための道具、特にクレパスを持っている子がいない中、こども達に、絵を描く楽しみとを実感してもらえたのも、HCCAプロジェクト、育てる会の支援があったおかげです。本当に、ありがとうございます。多くの方が ART PARTY に足を運んで頂けることを願っています。また、ART PARTY 終了しましたら、最終報告させて頂きたいと思っております。



## イベント告知

上記の活動と連動したイベントが開催されます。

「HCCAほかプロジェクト」とは、青年海外協力隊広島県OB会（HCCA）が実施する、青年海外協力隊隊員支援事業です。

今回は、「広島県 協力隊を育てる会」様からの全額支援により、マラウイの子どもたちに絵を描く機会を提供することが出来ました。

そして、その作品は、下記の日程で展示されます。皆様ぜひ子どもたちの作品を見に行ってみませんか？。

### ART PARTY 2012 第10回 世界の子どもの美術展

広島市中区加古町4-17 アステールプラザ 1F市民ギャラリー  
2012年12月11日(火)～17日(月) AM1:00～PM:00 (最終日PM5:00まで)

入場無料 会場運営ボランティアも募集しています。

詳しくはこちら→ <http://www.ant-hi-roshi-na.org/artparty/>

# 東日本大震災 被災地支援活動報告

細川光宜さん  
H8年度2次隊  
木工  
パプアニューギニア



活動場所 宮城県 石巻市 渡波小学校 & 気仙沼市 大島

昨年3月11日震災のニュースを見て、「協力隊で経験させてもらったことを社会に返すのは今しかない、何とかしなければ」との思いから、石巻で始まっていた協力隊 CBプロジェクトに合流し、渡波小学校避難所を支援、その後6月からは、ボランティアのほとんど来ていなかった気仙沼 大島へ。そこで待っていたのは、瓦礫の山、そして島への唯一の交通機関であるフェリーを失い、支援が届きにくい中で、必死に頑張る大島の若者たち、その名も「おバカ隊」自らも被災者で、家も親族も仕事も失ってなお島のために頑張っていた。そんな状況でも、暗くならずバカな冗談を言いながら楽しく前を向いて進みたい、そんな思いからこの名前が付いた。離島であるがゆえに、ボランティアが集まらず、気仙沼市内にあるボランティアセンターの支援も届きにくい大島で、物資の搬送から瓦礫撤去まで、すべて自分たちだけで行っていた。この状況を改善するため大島独自のボランティアセンターを作り直接ボランティアを受入れる体制を彼らと一緒に作った。最初は少なかったボランティアも報道から徐々に増え、広島からの支援が届いた代替フェリー（ドリームのうみ）がボランティアを島に次々と運んでくれた。多くの情熱あるボランティアが島を訪れガレキの山と戦ってくれた。沢山の情熱が集まればどんな困難でも乗り越えられる、その光景を目の当たりにした。その年中には終らないと思っていたガレキが次々と片付き 11 月には、ほとんど無くなっていた。そのころ、流されてしまった牡蠣養殖筏の再生がやっと始まっていた。しかし当初ボランティアが少なくボランティアが来るようになってからもボランティアのコーディネートに全力を上げていたため、筏の再生は他の地域と比べて明らかに遅れてしまっていた。大島の主要産業は、牡蠣の養殖だったが、震災で船・養殖施設はすべて流されていた。大島のために一番頑張った人達の本来の仕事（牡蠣養殖）は、ほとんど手付かずのままだった。約半年間一日も休まず島の復興のため一緒に汗を流した仲間と別れるのは悲しかったが、今自分に出来ることは、広島に帰り、この状況を報告し、筏の再生支援を訴えること。そう考えて大島を後にした。広島に帰ってからは、震災支援について発表できる場があれば、出来るかぎり参加して東北への支援（養殖筏再生支援）を訴えた。そんな時やはり頼りになるのは、協力隊。JICA中国からの CB会支援により、今年3月には、青年海外協力隊広島県 CB会が誇る現場技術系精鋭 CB5名「鈴木知昇（SE）・木村哲也（建築）・石津智久（野菜）・信時一夫（養殖）・竹内英祐（土木）」が大島を訪れ失われた養殖筏再生を手伝ってくれた。CB会からは、イベント等の収益金から筏再建資材を購入してもらった。「協力隊を育てる会」「青年海外協力協会」、からも支援していただいた。震災数百あった大島の養殖筏からするとまだまだ足りないが、少しずつ前に進んでいる。今後も、少しずつ収穫が始まった海産物販売も始め、継続的に支援を行いたい。島根県 CB会支援による「地球のステージ」でも講演会・海産物販売会（別紙参照）を開催する。また牡蠣養殖筏オーナーとして、支援に関れるプログラムも出来ているので、東北に行けなくても支援したいというかたぜひ一口オーナーとして、筏資材購入にご協力ください。



ヤマヨ水産 HP <http://yanayosuisan.wordpress.com/>

広島県 CB会フェイスブックでも広報中です。 <https://www.facebook.com/jinseiyunentete?ref=hl>





# 被災地支援活動

木村 哲也  
H17年度3次隊  
建築  
ホンジュラス



3月に気仙沼大島へ牡蠣いかだ再生支援に向かいました。震災後、初めて東北の地へ降り立ったこともあり、想像を絶する光景に目を疑いました。復興に向けて広島に住みながら自分に出来ることをしようと思い募金活動をしたりや物資を送ったりする後方活動に徹していましたが、TVや新聞などで見る映像や記事以上に現状は大変な状況にあるんだと実感しました。雪の降る中3日間ではありましたが、竹を運びロープで縛る牡蠣いかだ作りを現地の方々と共に行いました。その中で「多くの人にこの地へ来て頂き現状を見て欲しいです。」と言われていた現地の方々の声が印象に残っています。牡蠣の養殖が軌道に乗るのにはまだまだ時間がかかると思います。今回の活動を通して私も継続的な支援活動に携わっていきたいと思います。

## 留守家族会

続いて、派遣中の隊員のご家族の意見交換・交流の場として愛されてきた留守家族連絡会が今年も開催されます。

色々な話が聞けるので是非、ご家族に連絡してあげてくださいね。きっと皆様の活動に理解を示して帰られることでしょう。

下記日程で派遣中の留守家族を招いて連絡会をします。

日時: 2月16日(土) 開催

(スタッフは、AM9:00頃より準備開始)

場所: 留学生会館 (広島駅近く)

OB達が任国料理を振る舞い、ご家族が「うちの娘(息子)はこんな料理を食べていたんだ?!」と盛り上がるイベントです。またご家族の皆さんの自己紹介は、毎年笑いあり、涙ありで大盛況です。自分自身の派遣中は全然気付かなかった「親の思い」も分かります。

## 派遣前アンケート

年4回派遣となり3ヶ月に1回のペースで続々と派遣されています。皆さまに派遣前の意気込みを聞いてみました。(壮行会に参加されてアンケート提出があった方のみ掲載しています。)



24年1次隊

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練所の思い出	今の心境	2年間の意気込み
大成 宣彦	コンピューター技術	ガーナ	自分の知らない地で自分の知恵・技術を必要としている人のために役立ちたい	無し	前回（JOCV）も同じアフリカだったので里帰りする気分	健康に気を付けて無事に帰ってきます。
上瀬 智子	介護福祉士	ブラジル	ボランティアへの興味とやりがい	仲間との出会い	不安と希望。やるしかない！	2年間を終えて振り返ってみて足跡を残せるようになりたい。
松原 勇作	ソーシャルワーカー	スリランカ	自己成長	集団生活に慣れるまではストレスだった	素敵な出会いが待っているかと思うとわくわくする	たくさんのつながりの中で固有名詞の出会いを大切にしたい。
花岡 匡子	理学療法士	エクアドル	自分の視野を広げたい	特になし	楽しみ	帰って来たときに精一杯やっと思えるように頑張る
田中 涼子	小学校教諭	カンボジア	震災後たくさんの国が日本を助けてくれた。そのお返しをしたい。	候補生と色々な話をしたり、行事をしたり全部楽しかった。	わくわく80% 少しさびしいような20%	感謝の気持ちを忘れずに体当たりで頑張ります。

24年2次隊

西谷 文	青少年活動	スリランカ	ウガンダに遊びに行ったときに協力隊の方の活動を見て興味が湧いた。	素晴らしい方々との出会い	やらないといけないことが多い過ぎて焦ってる。	マラソンを走るみたいに最初から飛ばし過ぎず、じっくり信頼関係を築いていきたい。
山内こづえ	助産師	モロッコ	小学校の時に協力隊を知り参加したいと思った。	2か月一緒にいて友のような戦友のような人たちと楽しく過ごせた	やることが多く戸惑いや不安もあるけどモロッコでの活動を楽しみたい。	元気に帰って来たい。

編集室から

今年例年より早い会報編集&発送となりました。毎年、この季節になると派遣中の皆様は、任国でどのような年越しを過ごされるのかなあ？と自分が活動していた頃とダブらせて懐かしく感じています。編集に協力してくれたOBの方々ありがとうございました。これからたくさんの隊員・OBを紹介していきたいと思います。白羽の矢がたった方は、ご協力お願いしますね。また任国からの情報が不足しています。いつでも構わないので任国での面白エピソード・活動紹介などお待ちしております。



投稿・ご意見・ご要望は、こちらまで↓

編集長：木村 哲也  
(17年度3次隊 ホンジュラス 建築)

hiroshima\_jocv\_obkai@yahoo.co.jp (OB会メール)  
or lifetetsu@hotmail.com (編集長直接メール)

編集室所在地：広島県東広島市  
木村哲也建築デザインオフィス内

